



資料館だより

No.46
2013年
11月号

過去と未来がひびきあう
—ようこそ、エコミューズへ。
www.aozora.or.jp/shiryout/

あおぞら
財団付属
エコミューズ

おもろいわ西淀川 FBページはじめました



西淀川区のおもしろい場所、おもしろい出来事を見つけてみなさんにご紹介したいな、という思いからFacebookに【おもろいわ西淀川】というページを作りました。



「西淀川区ってなにがあるの?」「西淀川区の見所ってなに?」とよく聞かれるのですが、確かに有名な観光地があるわけでも、歴史的建造物があるわけでもない。けれども街を歩くとおもろいわ光景やおもしろい人々、おもろいお店などにたくさん出会える西淀川のまち。見慣れた景色も視点を変えたり切り取って見てみることで、これっておもしろいんじゃないかな、ということを再発見したり。

今後も随時記事を更新して、みなさんに新しい西淀川区の側面をお見せできたらと思います。みなさんからの西淀川区の“おもろい”投稿もどしどしお待ちしております! 自薦他薦は問いません。ページへの投稿はもちろん、メッセージでお寄せ頂いてもOK!

Facebookアカウントをお持ちの方はぜひ「いいね!」をお願いします。(水田)

<https://www.facebook.com/omoro-iwa>
こちらのQRコードからもアクセスできます



●藤井が語るこの資料● 小さな街の大きな被害 -「西淀川の震災展」の記録 (患者会資料No.6228)



この資料は、阪神・淡路大震災から2年を迎えた、1997年1月17～19日に開催された「西淀川の震災展」(於:エルモ西淀川)の記録冊子です。展示開催にあたり実行委員会が設けられ、あおぞら財団も事務局として携わりました。

西淀川区は、全壊54世帯、半壊1,118世帯の被害を受け、区内11ヶ所の避難所に最大203名が避難しました。特に佃地区では区内全体の約4割にあたる480世帯が全半壊、佃小学校には最大73名が避難しました。淀川や神崎川、左門殿川で護岸の崩壊や堤防道路の沈下・亀裂が発生、また佃・中島・百島・姫島・花川などで液状化現象が発生するなど区内各所で道路が寸断されました。

西淀川区臨海部は、江戸時代の新田開発地でもともと低地だったところに近代以降の工業化に伴い地盤沈下が進んでいました。そのため、1934年の室戸台風や1950年のジェーン台風をはじめ、たびたび洪水や高潮の被害を受けてきました。西淀川をはじめ、大阪湾岸の工業化が大規模な公害をもたらしたように、災害もまた地域の工業化とは無縁ではないと言えるでしょう。

震災が起こったのは、公害訴訟が大詰めを迎えた頃でした。震災から1年半後の3月2日には被告企業との和解が成立、翌年には和解金をもとにあおぞら財団が設立されました。

展示では、患者会や財団をはじめ区内の各団体からは、地域防災計画の必要性が提起されました。震災という「過去」の記録を通して、復興への連帯と住民参加のまちづくりという「未来」への展望が示されているところに、この震災展の最大の特徴であると言えます。

南海地震や上町断層を震源とする地震は、近い将来必ずやって来ます。この資料は、震災の「記憶」を記録し、来るべき災害への備えと街づくりの必要性を私たちに問いかけてくれています。(藤井正太)